

伊勢志摩国立公園

報告者：環境省中部地方環境事務所 国立公園保護管理企画官 内田清隆

三重県農林水産部みどり共生推進課 主幹 平野 美凡

伊勢志摩国立公園だが紀伊半島の東部にある志摩半島と伊勢神宮とその背後を含む東西 50km、南北 40km に渡り指定された公園。関係自治体 は伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町の 4 市町で鳥羽市と志摩市は全域が国立公園に指定されている。伊勢市と南伊勢町については 60%が公園に指定されている。公園の特長は景勝地として知られる英虞湾をはじめ矢湾、五ヶ所湾などの複雑に入り組むリアス海岸や神島、答志島などの多くの島々が美しい海岸景観を作っている。こうした豊かな自然背景として伊勢海老、アワビといった豊富な海産資源が育まれている。これらの自然に加え、この地で発明された真珠養殖、3000 年もの歴史があるとされる尼漁、古くから信仰の対象となっている伊勢神宮など歴史や伝統、文化も特長。こうした木々の資源を活用してエコツーリズムを盛んに行っている。公園の大きな特長として、公園に占める民有地の割合が 96%で極めて高く、公園の居住人口が多いため、地域の歴史、文化、生活、風習に触れることで人と自然との関わりを深く感じることができる。これらを踏まえて公園のテーマを悠久の歴史を刻む伊勢神宮、人々の営みと自然がおりなす里山里木としている。

満喫プロジェクトの推進体制だが、関係機関、地域の団体、交通事業者からなる協議会を設立して昨年 12 月にステップアッププログラムを策定している。プログラムでは訪日外国人利用者の利用上昇に向けて受け入れ環境の向上、観光コンテンツの向上、景観保全、情報発信の許可という 4 つの課題に区分して、それらを踏まえて上質な展望環境や快適な利用環境の整備、優れた景観の保全という 4 つの視点から 4 つの取り組みを定めているところだ。これらの取り組みを国立公園に関わるものがそれぞれ責任を持って 2020 年までに計画的に取り組み、訪日外国人利用者を 3 倍の 10 万人にするという目標を掲げている。

<取り組み 2> 多様な主体によるサービスの提供について

伊勢志摩国立公園には多くの人が住んでいる。そこで活用を進めていくためには、地域住民を含む様々な関係者の積極的な取り組みが重要となっている。地域全体でサービスの提供を行うために伊勢志摩エコツーリズム推進協議会の設立を進めている。

<取り組み 3> 町並み等の景観改善について

展望地からの景色や町並み等景観を阻害する要因の抑止や、景観改善に向けた取り組みを進めており、課題を共有するために国立公園内市町による合同勉強会を開催した。その他、近年問題になっている太陽光発電施

設については三重県景観計画の変更及び景観形成ガイドラインを作成し基準を明確にした。アクセス道路でもある外宮度会橋線において、一部電線の地中化を行い景観の向上及び安全で快適な歩行空間の確保を行っている。

<取り組み 4> インバウンド対応のための施設整備について

外国人利用者がストレスなく快適に利用できるような施設整備を進めている。県営事業としては、恋人の聖地にも選ばれているハートの入江がある南伊勢町の鵜倉園地において、展望デッキなどの整備を進めている。また登れる灯台である志摩市の安乗埼灯台において、遊歩道の整備を進めている。中部地方環境事務所の事業としてはトリップアドバイザーの展望台でベスト 10 にも入っている横山展望台の施設を改修し、展望デッキやカフェ機能を持った展望休憩所の整備を進めている。天空のカフェテラスについては来年の夏ごろにオープンを予定している。

<取り組み 5> 人材育成について

伊勢志摩国立公園では、何を行うにしても地域の人々の関わりが非常に重要なのだが、他の国立公園も同じだとは思うが、国立公園内に住んでいるという意識が、住んでいる人の中で高いと言えないのが現状だ。地域の人々が国立公園の保全に自発的に取り組んでいただけるよう、国立公園に住んでいるということを認識してもらえるような取り組みを行った。伊勢志摩国立公園は昨年指定 70 周年を迎え、全国エコツーリズム大会をはじめとして様々なイベントを行い、地域の人にも参加してもらった。過去にも 50 周年、60 周年にそういった事業を行ってきたが、そのときだけ盛り上がり、その後なかなか続かないという課題があった。そこで今回は 71 周年になるが、伊勢志摩が国立公園に指定されたということを思い起こしていただくこと、ハッピーバースデー伊勢志摩国立公園というイベントを開催した。今年は第一回なのでささやかなお誕生会のような感じとなったが、来年度からは、そんなに目立つわけではないが地域のために頑張っていた人々をピックアップして表彰できるような制度ができないかと検討している。次世代の育成については、昨年の 70 周年記念事業を契機に地域の大学で学生部会を結成してもらい、その子供達が引き続き今年も活動してくれている。学生部会の名称の「あばばい」というのは、伊勢志摩地方の方言で「眩しい」という意味になる。その他、伊勢志摩国立公園の地域資源を活用する団体や人材育成をするために、トリップアドバイザーの社長を務められた原田様を講師に迎えてインバウンドマーケティングセミナーを開催した。

<取り組み 6> 国立公園への誘導、プロモーションについて

伊勢志摩国立公園の認知度を高めるために様々なツールを利用して国内外に情報を発信している。この写真はサンヨー食品株式会社さんが三重県産の伊勢海老を原材料として商品化されたサッポロ一番 和ラー 三重 伊勢海老汁風。和ラーのシリーズはパッケージの裏に特色を示す写真が載っており、今回は英虞湾の写真に掲載してもらった。英虞湾は伊勢志摩国立公園を代表する風景写真の 1 つでもあるので、ぜひ伊勢志摩国立公園という文字を入れていただきたいといったところ、このように写真と一緒に文字も入れていただいた。和ラーは全国で販売されているので、見かけた際には手に取ってもらえたらと思う。女優の波留さんが出ている CM が全国展開しているが、

そのロケ地も伊勢志摩国立公園となっている。その他として Instagram を開設している。このような感じで伊勢志摩国立公園の食や景観などの地域資源を発信している。一番上の端にあるのが Instagram・プロモーションに使っているマークだが、伊勢志摩地方では年中しめ縄を飾っているという風習を表している。このように写真とともに伊勢志摩地方の文化などをみなさまにお知らせしている。